

九州における地デジ難視対策の進捗状況

～アナログ終了後の取組～

九州総合通信局
平成24年5月

目 次

1 新たな難視の恒久対策の進捗状況

2 周波数リパック等の進捗状況

3 共聴施設のデジタル化対応状況

※参考資料

○用語の解説

1 新たな難視の恒久対策の進捗状況①

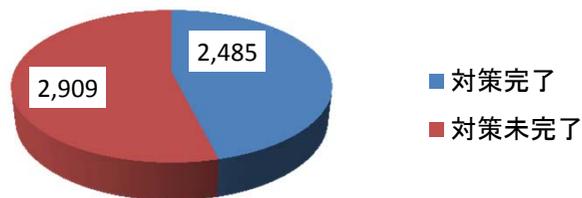
- 九州の新たな難視の規模は、全国のおよそ2割。
- 新たな難視が発生した地区に対し、平成23年7月24日のアナログ放送終了後も引き続き、デジタル放送移行のための恒久対策を実施。恒久対策進捗率は、平成23年度末現在、75%（世帯数ベース）。
- 残り2,909地区、12,787世帯については、平成24年度末までの完了を目標に、恒久対策を実施していく。

◆新たな難視の恒久対策の対策状況(九州全体)

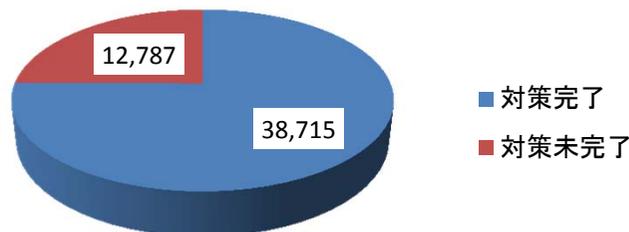
(平成24年3月31日現在)

	新たな難視(A+B)	対策完了(A)	進捗率(A/(A+B))	対策未完了(B)
地区数	5,394 地区	2,485 地区	46%	2,909 地区
世帯数	51,502 世帯	38,715 世帯	75%	12,787 世帯

●進捗状況(地区数ベース)



●進捗状況(世帯数ベース)

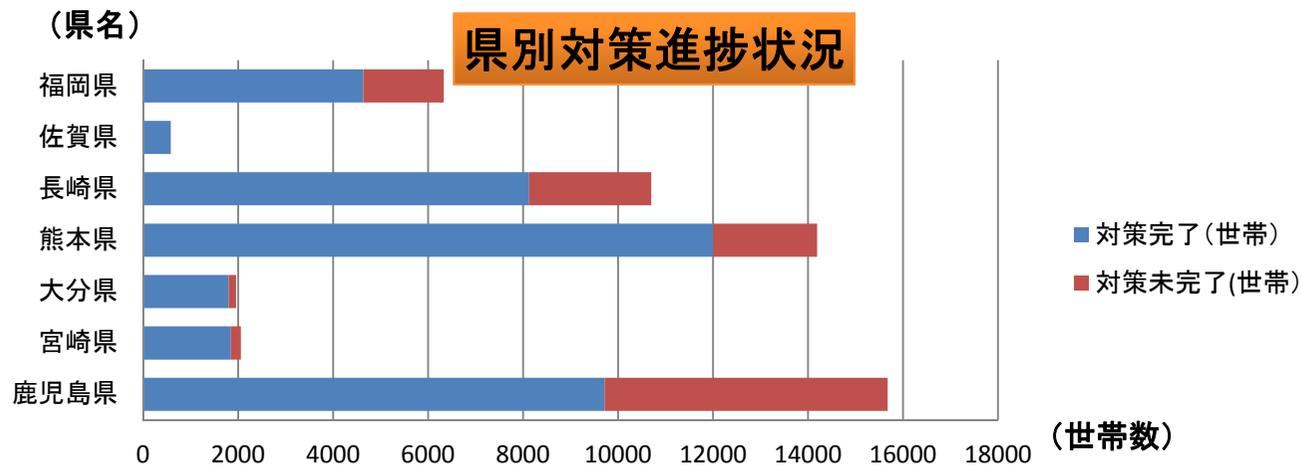


1 新たな難視の恒久対策の進捗状況②

○ 新たな難視の状況を各県別に見ると、福岡、長崎、熊本、鹿児島各県が多く、特に鹿児島県が、新たな難視地区・世帯数、恒久対策未完了地区・世帯数とも最大となっている。

◆新たな難視の恒久対策の進捗状況(各県)

県名	新たな難視(A+B)		恒久対策完了(A)		恒久対策未完了(B)	
	地区数	世帯数	地区数	世帯数	地区数	世帯数
福岡県	560地区	6,332世帯	207地区	4,636世帯	353地区	1,696世帯
佐賀県	29地区	582世帯	27地区	580世帯	2地区	2世帯
長崎県	1,163地区	10,700世帯	553地区	8,130世帯	610地区	2,570世帯
熊本県	1,305地区	14,194世帯	823地区	12,000世帯	482地区	2,194世帯
大分県	332地区	1,958世帯	279地区	1,802世帯	53地区	156世帯
宮崎県	328地区	2,057世帯	296地区	1,847世帯	32地区	210世帯
鹿児島県	1,677地区	15,679世帯	300地区	9,720世帯	1,377地区	5,959世帯

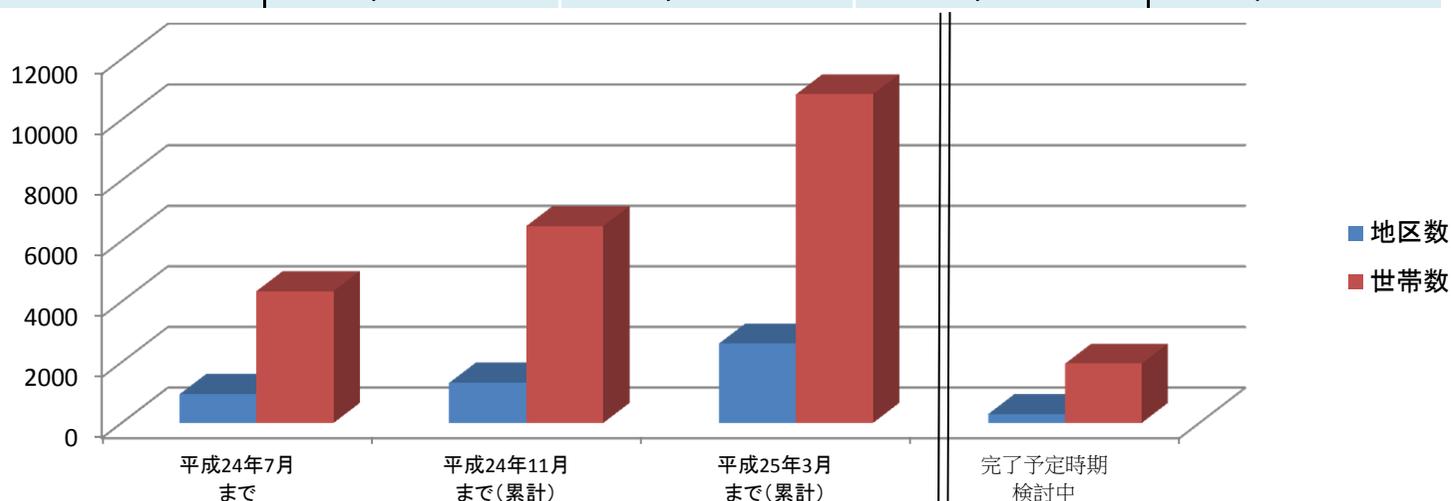


1 新たな難視の恒久対策の進捗状況③

- 恒久対策未完了地区の今後の見通しについて、完了予定時期別に見ると、本年7月までに943地区、4,347世帯、本年度末までに、2,617地区、10,835世帯が完了予定となっている。
- 一方、292地区、1,952世帯については、①世帯あたりの費用負担が大きい、②アンテナ建設地の確保が困難等の理由から、対策完了予定時期が決まっていない。これらについても、本年度末までの完了を目標にいっそう取組を強化する。

◆恒久対策完了予定時期別地区数・世帯数(九州全体)

	対策未完了 (C+D) (=B)	H24. 7月まで 完了予定	H24. 11月まで 予定(累計)	H25. 3月まで 予定(累計) (C)	完了予定時期 検討中 (D)
地区数	2,909	943	1,322	2,617	292
世帯数	12,787	4,347	6,491	10,835	1,952



2 周波数リパック等の進捗状況

- ◆アナログ放送終了後の地デジのチャンネル変更(周波数リパック:周波数再編のための「再編リパック」とデジタル受信障害解消のための「改善リパック」がある)を、九州では、26局所において計画。うち、平成23年度末までに17局所において完了。(参考:全国ベースでは、97局所において計画。うち、平成23年度末までに57局所において完了。)
- ◆平成24年度から平成25年度にかけてさらに9局所で実施予定。うち、「再編リパック」(残り3局所)は、本年6月までにすべて完了予定。その後は、主に韓国の放送局との混信によるデジタル受信障害への対策として、「改善リパック」を実施。
- ◆なお、デジタル受信障害への送信側対策としては、「改善リパック」のほか、新しいチャンネルの追加(補間波、補間局)も実施。また、一部、高性能アンテナの設置等の受信側対策も実施。

◆周波数リパックの進捗状況

(平成24年3月31日現在)

県名	平成23年度完了局所	平成24年度実施予定局所等
福岡県(8局所)	宝珠山、北九州田野浦、苅田、飯塚南、寺内、豊津	大河内、宗像(※注)
佐賀県(1局所)	太良大浦	—
長崎県(14局所)	諫早、島原、奈摩、郷ノ浦、有川、富江、蚊焼	平戸、野母崎、西彼大島、松浦、大瀬戸、宇久、小値賀
大分県(2局所)	安心院、西日田	—
鹿児島県(1局所)	川床	—

※注:宗像は平成25年度実施予定

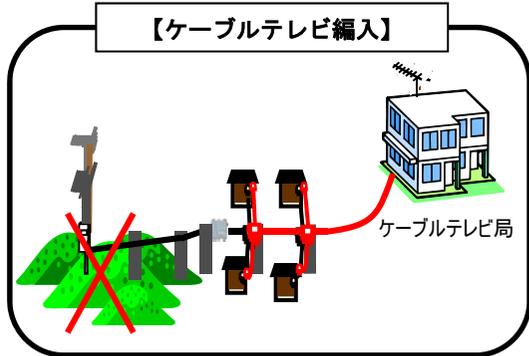
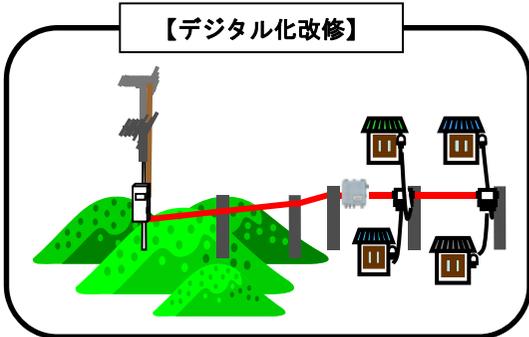
(注)赤字は再編リパック、黒字は改善リパック。

3 共聴施設のデジタル化対応状況①

(1) 「辺地共聴施設」のデジタル化

九州管内の辺地共聴施設2,158施設のうち、23施設を除き、アナログ放送停波までにデジタル化対応を完了。
 23施設のうち、15施設は平成24年3月31日までに恒久対策を完了し、残る8施設についても平成24年度での恒久対策を完了予定。

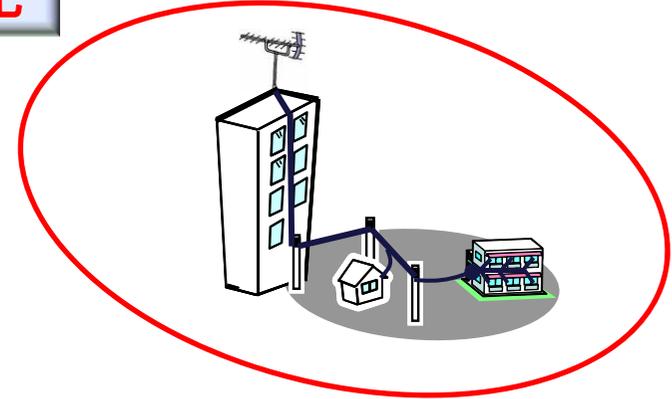
県名	施設数	対応状況等					
		恒久対策対応済施設	デジタル化改修	他の施設への統合	ケーブルテレビへ編入	直接受信へ移行	衛星放送による暫定対策
福岡県	226	225	165	7	39	14	1
佐賀県	72	72	14	1	57	—	—
長崎県	139	139	94	—	39	6	—
熊本県	428	427	270	5	121	31	1
大分県	509	507	121	4	359	23	2
宮崎県	349	348	111	6	218	13	1
鹿児島県	435	432	349	9	28	46	3
合計	2,158	2,150	1,124	32	861	133	8



3 共聴施設のデジタル化対応状況②

(2) 「受信障害対策(ビル陰)共聴施設」のデジタル化

受信障害対策(ビル陰)共聴施設8,029施設のうち、アナログ停波時点で未対応の4施設についても、平成23年度末までにデジタル化対応を完了。



	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	合計
施設数	4,345	266	713	828	441	520	916	8,029

(3) 「集合住宅共聴施設」のデジタル化

集合住宅共聴施設200,515施設について、アナログ停波までにすべての施設がデジタル化を完了。



	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	合計
施設数	91,000	9,080	21,520	24,625	18,005	13,125	23,160	200,515

【用語の解説①】

◆「新たな難視」とは？

・放送電波の特性の違い等により、アナログ放送は受信できたがデジタル放送が受信できなくなることを言います。

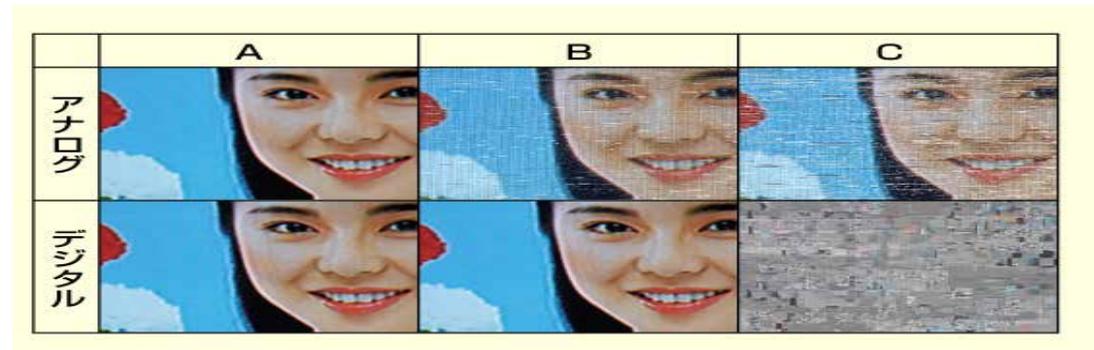
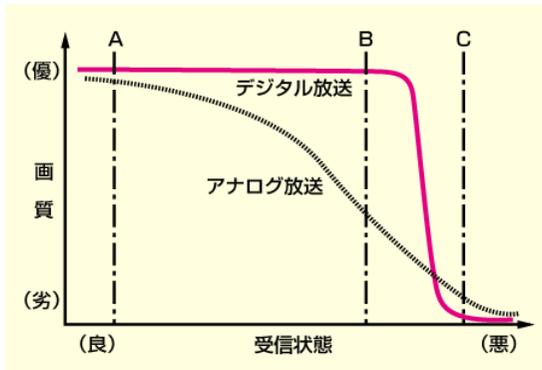
かけ効果(Cliff effect)

(アナログ波)

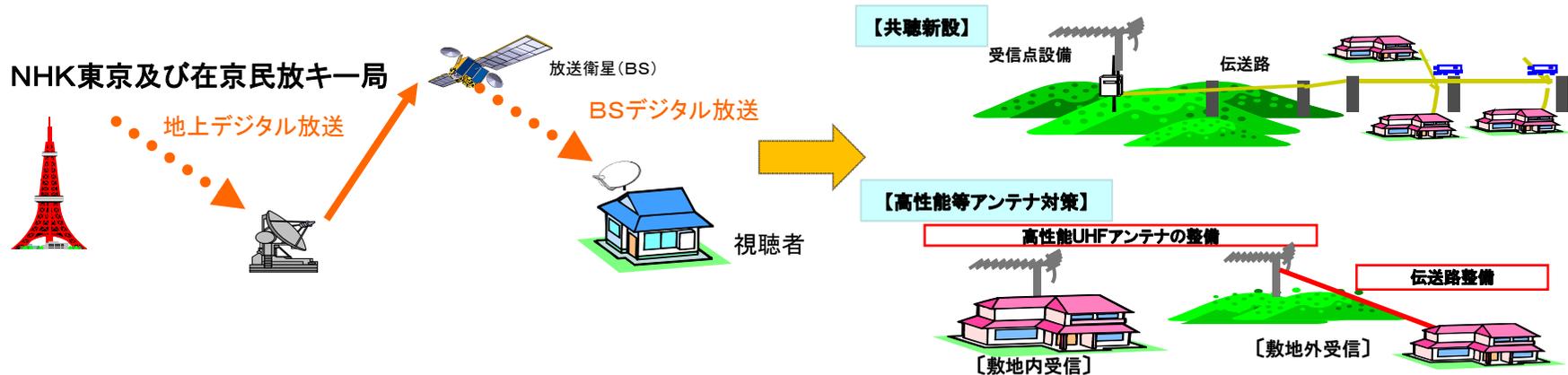
電波が弱くなると受信画質も徐々に劣化(チラチラ画面)

(デジタル波)

電波が弱くなると急激に画質劣化(画面真っ黒)



・アナログ放送終了までに対策が間に合わなかった地区は、衛星放送による暫定対策を講じつつ、共聴施設の新設や高性能アンテナの設置等の恒久対策を実施しています。



【用語の解説②】

◆「周波数リパック」とは？

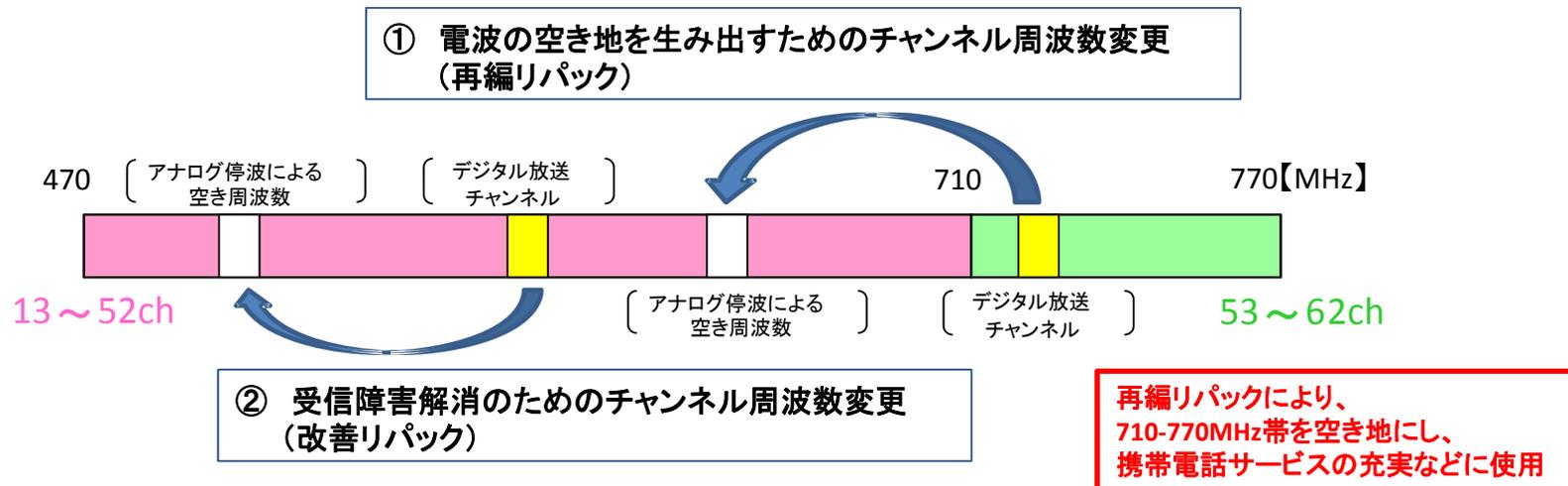
- ・周波数の再編やデジタル受信障害解消のために、地デジのチャンネルの変更を行うことです。「再編リパック」と「改善リパック」に分類されます。

◆「再編リパック」とは？

- ・周波数を再編し電波の空き地を生み出すためのチャンネル変更のことです。これまで、13ch～62chを地デジに使用してきましたが、アナログ放送終了に伴い、53ch～62chの地デジチャンネルを、52ch以下の旧アナログチャンネルに切り替えるものです。空き地となった53ch～62chは、携帯電話サービスの充実等の新たな用途に使用します。

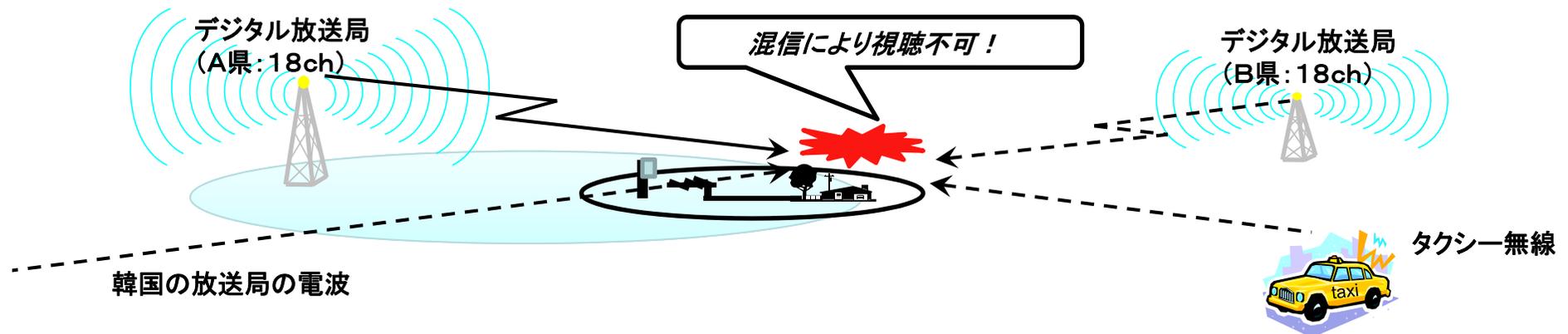
◆「改善リパック」とは？

- ・デジタル受信障害解消のためのチャンネル変更のことです。有明海の沿岸地域など電波が特に混み合って混信が生じやすい地域や、韓国からの電波の影響による受信障害が見られる地域で、アナログ放送終了以降に、地デジを別のチャンネルに切り替えるものです。
- ・なお、デジタル受信障害への送信側対策としては、「改善リパック」のほか、既存の中継局や新たに開設した中継局における新しいチャンネルの追加（補間波、補間局）もあります。



◆「デジタル受信障害」とは？

- ・他県の地デジ放送局や韓国の放送局、タクシー無線の電波などとの混信により地デジを良好に受信できないことを言います。



- ・送信チャンネルの変更(周波数改善リパック)や高性能アンテナの設置などにより対策を講じます。

